

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年8月12日
【四半期会計期間】	第23期第3四半期（自平成27年4月1日至平成27年6月30日）
【会社名】	アクセルマーク株式会社
【英訳名】	AXEL MARK INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 尾下 順治
【本店の所在の場所】	東京都中野区本町一丁目32番2号
【電話番号】	03 - 5354 - 3351
【事務連絡者氏名】	経営管理部マネージャー 鈴木 啓太
【最寄りの連絡場所】	東京都中野区本町一丁目32番2号
【電話番号】	03 - 5354 - 3351
【事務連絡者氏名】	経営管理部マネージャー 鈴木 啓太
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第3四半期 連結累計期間	第23期 第3四半期 連結累計期間	第22期
会計期間	自平成25年 10月1日 至平成26年 6月30日	自平成26年 10月1日 至平成27年 6月30日	自平成25年 10月1日 至平成26年 9月30日
売上高 (千円)	2,572,078	2,358,119	3,391,602
経常利益又は経常損失 () (千円)	51,314	30,070	53,172
四半期(当期)純利益又は四半期純 損失 () (千円)	25,153	53,900	20,990
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	25,153	53,900	20,990
純資産額 (千円)	1,589,465	1,532,104	1,585,260
総資産額 (千円)	1,972,255	1,869,692	2,029,334
1株当たり四半期(当期)純利益金 額又は1株当たり四半期純損失金額 () (円)	5.75	12.33	4.80
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	5.65	-	4.69
自己資本比率 (%)	80.6	81.9	78.1

回次	第22期 第3四半期 連結会計期間	第23期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成26年 4月1日 至平成26年 6月30日	自平成27年 4月1日 至平成27年 6月30日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	4.83	1.09

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、当第3四半期連結会計期間において、Game Creator Incubation有限責任事業組合を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるモバイルインターネットを取り巻く環境としては、スマートフォンの高機能化と通信環境の快適化が進み、スマートフォン利用者の増加傾向が続いております。平成27年3月末におけるスマートフォンの普及率は60.6%に達し（内閣府消費動向調査）、人々の生活や消費スタイルに新しい変化を及ぼしております。モバイルコンテンツ市場におきましても、平成24年から平成25年にかけて前年比127%である1兆783億円の規模に拡大しており、特にスマートフォン等市場においては前年比224%である8,336億円の規模へ急拡大しております（一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム調べ）。

このような市場環境の下、当社は今後もスマートフォンの普及とモバイルコンテンツ市場の拡大は続くと考えており、競争の激化はみられるものの、市場の拡大期に存在する大きな機会をとらえるために、モバイルインターネット領域を主要な事業ドメインと位置付けて事業展開をしております。

モバイルゲーム事業においては、ネイティブゲームのヒット創出を今期の事業戦略に掲げており、平成27年1月に「大乱闘!!ドラゴンパレード」を株式会社セガゲームス セガネットワークスカンパニーと協業でリリースし、3月には「キングダム -英雄の系譜-」を株式会社ディー・エヌ・エーとの協業でリリースいたしました。特に「キングダム -英雄の系譜-」に関しましては原作となる漫画が5月にテレビ番組で特集されるなどの影響もあり好調に推移しております。一方で前記のような他社との協業によるタイトルのネット（純額）売上の比率がグロス（総額）売上に比べて増加した結果、減収となっております。

また、事業運営の効率化の観点から連結子会社である株式会社Interrapsの開発チーム及び開発ラインを連結子会社であるアクセルゲームスタジオ株式会社に引き継ぎ、経営の一体化を図りました。なお、株式会社Interrapsに関しては平成27年3月に解散を決議しております。

広告事業においては、主要顧客の単価の引き下げなどを背景に当第3四半期会計期間においては売上が減少しております。

コンテンツ事業においては、スマートフォン向けコミック時間読みサービス「コミックルーム」のサービスを6月末に停止いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,358,119千円（前年同期比8.3%減）、営業損失は24,611千円（前年同期は54,065千円の営業利益）、経常損失は30,070千円（前年同期は51,314千円の経常利益）となり、四半期純損失は53,900千円（前年同期は25,153千円の四半期純利益）となりました。

各セグメントの業績は、次の通りであります。

(モバイルゲーム事業)

モバイルゲーム事業につきましては、当セグメント特有のボラタリティをヘッジする目的で他社との協業によるゲームタイトルのリリースを推進しております。その取り組みの中で、平成27年3月に株式会社ディー・エヌ・エーとの協業でリリースした「キングダム -英雄の系譜-」が当第3四半期会計期間において順調に推移し収益に貢献いたしました。一方、このような状況からモバイルゲーム事業の売上に占める他社協業タイトルのネット（純額）売上の比率が自社で運用配信しているタイトルのグロス（総額）売上に比べて増加しており、結果として減収になっております。

以上の結果、当セグメントの売上高は1,146,783千円（前年同期比16.8%減）、セグメント利益は88,438千円（前年同期比40.3%減）となりました。

(広告事業)

広告事業につきましては、主力であるスマートフォン向けアドネットワーク「ADroute」の収益性を重視し、利益率の改善に努めてまいりましたが、当第3四半期会計期間においては主要顧客の単価の引き下げなどを背景に平成27年3月に過去最高の売上を計上するなどした第2四半期会計期間と比べ売上が大きく減少しております。

以上の結果、当セグメントの売上高は905,276千円（前年同期比13.9%増）、セグメント利益は47,097千円（前年同期比8.1%減）となりました。

(コンテンツ事業)

コンテンツ事業につきましては、スマートフォン向けコミック時間読みサービス「コミックルーム」のサービスを6月末に停止いたしました。

以上の結果、当セグメントの売上高は305,926千円(前年同期比23.7%減)、セグメント利益は10,457千円(前年同期比63.4%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金が79,113千円増加したものの、売掛金が124,370千円、のれんが82,885千円、仕掛品が45,328千円減少したこと等により前期末に比べて159,642千円減少し、1,869,692千円となりました。

負債については、短期借入金が増加したものの、買掛金が73,532千円、未払法人税等が29,794千円、賞与引当金が15,612千円、その他流動負債が51,168千円減少したこと等により前期末に比べて106,485千円減少し、337,588千円となりました。

純資産については、四半期純損失53,900千円の計上等により、前期末に比べて53,156千円減少し、1,532,104千円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,000,000
計	17,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,370,900	4,370,900	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数 100株
計	4,370,900	4,370,900	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成27年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成27年4月1日～ 平成27年6月30日	-	4,370,900	-	563,900	-	148,821

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,370,000	43,700	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 900	-	-
発行済株式総数	4,370,900	-	-
総株主の議決権	-	43,700	-

(注)「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社保有の自己株式33株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
アクセルマーク株式会社	東京都中野区本町一丁目32番2号	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(注)当社は、単元未満自己株式33株を保有しております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年10月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,064,593	1,143,706
売掛金	521,045	396,675
仕掛品	45,328	-
貯蔵品	1,480	1,249
その他	56,958	69,946
貸倒引当金	6,813	234
流動資産合計	1,682,593	1,611,342
固定資産		
有形固定資産	19,504	16,655
無形固定資産		
のれん	259,291	176,405
その他	3,160	1,959
無形固定資産合計	262,451	178,365
投資その他の資産		
敷金及び保証金	64,784	63,328
その他	0	0
投資その他の資産合計	64,784	63,328
固定資産合計	346,740	258,349
資産合計	2,029,334	1,869,692
負債の部		
流動負債		
買掛金	214,978	141,445
短期借入金	-	65,000
未払法人税等	32,215	2,420
賞与引当金	34,394	18,782
ポイント引当金	10,999	9,621
その他	151,486	100,318
流動負債合計	444,074	337,588
負債合計	444,074	337,588
純資産の部		
株主資本		
資本金	563,900	563,900
資本剰余金	1,116,770	1,116,770
利益剰余金	95,527	149,427
自己株式	25	25
株主資本合計	1,585,117	1,531,217
新株予約権	142	886
純資産合計	1,585,260	1,532,104
負債純資産合計	2,029,334	1,869,692

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)
売上高	2,572,078	2,358,119
売上原価	1,578,016	1,482,593
売上総利益	994,061	875,525
販売費及び一般管理費	939,996	900,137
営業利益又は営業損失()	54,065	24,611
営業外収益		
受取利息	659	777
その他	204	307
営業外収益合計	864	1,084
営業外費用		
支払利息	93	94
株式上場関連費用	2,386	4,122
解約違約金	964	-
支払手数料	-	1,500
その他	169	826
営業外費用合計	3,614	6,542
経常利益又は経常損失()	51,314	30,070
特別損失		
訴訟和解金	-	17,000
特別損失合計	-	17,000
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	51,314	47,070
法人税、住民税及び事業税	26,161	6,830
法人税等合計	26,161	6,830
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	25,153	53,900
少数株主利益	-	-
四半期純利益又は四半期純損失()	25,153	53,900

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	25,153	53,900
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	25,153	53,900
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	25,153	53,900
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結会計期間において、Game Creator Incubation有限責任事業組合を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)
給料手当	332,417千円	329,975千円
広告宣伝費	47,572	51,054
のれん償却額	84,510	82,885
賞与引当金繰入額	46,744	48,456
減価償却費	4,325	2,960
貸倒引当金繰入額	382	6,552

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)
減価償却費	5,060千円	3,893千円
のれん償却額	84,510	82,885

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	モバイル ゲーム事業	広告事業	コンテンツ 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	1,378,716	792,302	401,060	2,572,078	-	2,572,078
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	2,400	-	2,400	2,400	-
計	1,378,716	794,703	401,060	2,574,479	2,400	2,572,078
セグメント利益	148,026	51,246	28,598	227,871	173,806	54,065

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	227,871
のれんの償却額	45,389
全社費用(注)	128,417
四半期連結損益計算書の営業利益	54,065

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	モバイル ゲーム事業	広告事業	コンテンツ 事業	計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高						
外部顧客への売上高	1,146,783	905,267	305,926	2,357,977	142	2,358,119
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	8	-	8	8	-
計	1,146,783	905,276	305,926	2,357,985	133	2,358,119
セグメント利益	88,438	47,097	10,457	145,993	170,605	24,611

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	145,993
のれんの償却額	45,389
全社費用（注）	125,215
四半期連結損益計算書の営業損失	24,611

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 （自平成25年10月1日 至平成26年6月30日）	当第3四半期連結累計期間 （自平成26年10月1日 至平成27年6月30日）
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額（ ）	5円75銭	12円33銭
（算定上の基礎）		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額（ ）（千円）	25,153	53,900
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額（ ）（千円）	25,153	53,900
普通株式の期中平均株式数（株）	4,370,883	4,370,867
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	5円65銭	-
（算定上の基礎）		
四半期純利益調整額（千円）	-	-
普通株式増加数（株）	83,378	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

（注）当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 8月12日

アクセルマーク株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柴田 憲一 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石井 広幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアクセルマーク株式会社の平成26年10月1日から平成27年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年4月1日から平成27年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年10月1日から平成27年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アクセルマーク株式会社及び連結子会社の平成27年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

- 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。